

# フォルケ・ベルナドッテ伯爵暗殺事件

フォルケ・ベルナドッテは、スウェーデンの外交官、貴族、そして人道主義者であり、その生涯は20世紀中盤の最も激動的な出来事と密接に結びついていました。1895年にスウェーデン王室に生まれ、第二次世界大戦の最後の数ヶ月で、「**白いバス**」救出作戦を主導し、ナチスの強制収容所から3万人以上の囚人を解放する交渉を行ったことで国際的な評価を得た。彼の中立的で慈悲深く、実践的な交渉者としての評判は、ヨーロッパで最も尊敬される人道主義者の一人でした。

1948年、新たに設立された**国連**が中東で最初の大きな試練に直面した際、ベルナドッテは組織の**初の公式仲介者**に任命された。国連のパレスチナ分割計画とイスラエル国家宣言の後、アラブ・イスラエル紛争は急速にユダヤ人とアラブ人の部隊間の全面戦争にエスカレートした。国連は両当事者間で中立的に行動でき、国際的な敬意を享受し、極めて不安定な状況を操縦する外交スキルを持つ仲介者を求めている。ベルナドッテの証明された交渉歴、スウェーデン人としての彼の中立性、そして戦時中の人道的経験は、この繊細で前例のない任務の理想的な候補者とした。

## 人道的・外交的業績

アラブ・イスラエル紛争への関与以前、フォルケ・ベルナドッテ伯爵はすでに人道主義者および外交官として不朽の評判を築いていた。彼の最も顕著な業績は、第二次世界大戦の最後の数ヶ月、ナチスの強制収容所から数万人の命を救った大胆な救出作戦を主導したことである。スウェーデン赤十字副会長として、ベルナドッテは外交的つながり、落ち着いた性格、そして道徳的勇気を使って、第三帝国で最も有力な人物の一人であるハインリヒ・ヒムラーなどのナチス高官と直接交渉した。

忍耐、機敏さ、そして戦略的中立性の組み合わせにより、ベルナドッテは1945年初頭にドイツの収容所から約**3万人の囚人**の解放と避難を確保した。解放された者の中にはスカンジナビア人、フランス人、ポーランド人、そしてナチス政権崩壊時に即時死に直面していた多数のユダヤ人囚人が含まれていた。彼の努力は「**白いバス**」として知られる大胆な救出作戦の創設に頂点に達した。

白いバスプロジェクトは、物流的および人道的革新だった。ベルナドッテはバス、トラック、アンビュランスの車列を組織し、すべてを完全に白く塗装し、大きな赤い十字でマークして、戦争の混沌の中で中立的な車両として目立つようにした。これらの車両はドイツと占領下ヨーロッパの危険な戦闘地帯を横断し、ラーフェンスブリュック、ダッハウ、ノイエンガンメなどの強制収容所から囚人を集め、中立的なスウェーデンへの安全な場所へ輸送した。バスの白色は意図的に軍事輸送と区別し、人道的目的を示すために選ばれた—このアイデアは後に、紛争地帯で人道的・医療車両を国際法で保護するための現代的慣行に影響を与えた。

ベルナドッテの作戦は危険を伴わなかったわけではない。車列は連合軍爆撃機の絶え間ない攻撃の脅威と現地ナチス司令官の妨害の下で活動した。これらの課題にもかかわらず、作戦は期待を上回る成功を収め、数千の命を救い、最も残虐な政権との外交交渉でさえ具体的な人道的成果を生むことを示した。

彼のリーダーシップと勇気により、ベルナドッテは道徳的誠実さと実践的慈悲の象徴として国際的に称賛された。スウェーデン赤十字との仕事は中立性と人道的奉仕の最高の理想を体現した—これらの原則は後に彼を国連の初の仲介者として任命する指針となった。白いバス作戦は命を救っただけでなく、戦後人道法と現代の平和維持慣行の基礎を築くのに役立ち、ベルナドッテを人道的外交の先駆者とした。

## 国連仲介者任命と1948年の任務

第二次世界大戦中の並外れた人道的仕事の後、フォルケ・ベルナドッテ伯爵は国際的な信頼と道徳的権威の人物となった。彼の中立性、外交、慈悲の歴史は**国連**が彼を**初の公式仲介者**に任命するに至った—国際外交における新しく前例のない役割。1948年5月、国連は最も緊急の危機に直面した：**英国委任統治の終了**と**イスラエル国家宣言**後のパレスチナでの全面戦争の勃発。

**1947年の国連分割計画**（総会決議181）は、英国のパレスチナ委任統治を2つの独立国家—ユダヤ人とアラブ人—に分割し、エルサレムを国際管理下に置くことを提案した。ユダヤ人指導者は外交的勝利と国家性の法的基盤として計画を受け入れたが、**パレスチナ・アラブ人と近隣アラブ国家**はそれを深く不公正として拒否した。

当時、**パレスチナ・アラブ人は人口の約3分の2**を構成し、**ユダヤ人は3分の1**に過ぎなかった。それにもかかわらず、計画は提案されたユダヤ人国家に**パレスチナ総面積の55%**を割り当て、ユダヤ人人口が**法的所有権で土地の7%未満**を所有していたにもかかわらず。残り—主にアラブ所有の土地と農地—は断片的で経済的に弱いアラブ国家の基盤を形成するはずだった。パレスチナ人とより広範なアラブ世界にとって、この分割は公正な妥協ではなく、植民地撤退の影とホロコースト後の国際的罪悪感で設計された剥奪の形態だった。

アラブ・パレスチナ指導者にとって、国連の決定は**自己決定権の原則**と人口統計的・領土的所有の生きた現実の両方を侵害した。それは多数派人口が同意も相談もされずに作成された土地への外国政治実体の強制として見られた。計画は歴史的なパレスチナの統一を効果的に解体し、アラブ人によって英国委任統治下で始まり、シオニスト運動が後援するユダヤ人移民の波で加速した長い剥奪プロセスの頂点と見なされた。

したがって、イスラエルが1948年**5月14日**に独立を宣言し、アラブ軍が翌日介入した際、アラブ世界では戦争は侵略ではなく、強制された分割に抵抗し、パレスチナの領土的・政治的完全性を守る試みとして見られた。この雰囲気—戦争、移住、苦い歴史的苦情—にフォルケ・ベルナドッテ伯爵が国連の初の仲介者として送られた。

彼の評判と誠実さにもかかわらず、ベルナドッテはすぐに紛争を駆動するイデオロギー的・宗教的信念の全力を直面した。**シオニスト運動**内の多くの指導者、主流のナショナリストと**レヒ**

(スターン・ギャング)などの極端派を含む、ヘブライ聖書に描写される**エレッツ・イスラエル**の全土がユダヤ民族の永遠で神的に定められた故郷であると信じていた。彼らにとって、この神聖な命令は国際法、政治的妥協、外交交渉をすべて超越した。分割の概念―彼らが聖地とみなすものの任何部分で**アラブ国家**を認めること―は政治的譲歩ではなく、**精神的裏切り**だった。

神聖な主権へのこの妥協のない信念は、ベルナドッテの任務を多くのシオニスト指導者、特に地下の軍事派のイデオロギー基盤と直接対立させた。それでも彼は正義と実用性の間で共通の基盤を見つける決意で続けた。彼の不屈の努力は戦争での**最初の停戦**をもたらし、**1948年6月11日**に宣言され、戦闘を一時的に停止し、両側の民間人に人道的援助を届けることを可能にした。

この停戦中に、ベルナドッテは正義と人道的懸念の原則に導かれた最初の**平和提案**を策定した。彼は**エルサレム**をその普遍的宗教的重要性から**国際管理下に置くこと**、**パレスチナ難民が家に戻るか補償を受けること**、そして**領土調整―ガリラヤをイスラエルに、ネゲブ砂漠をアラブに―**により公正な土地分配を作成することを提案した。

計画は穏健さと誠実な妥協の努力を反映していたが、両陣営から即座に拒否された。アラブ政府はイスラエルの存在を暗黙に認めるとして拒否し、多くのシオニスト派、特に極右地下はエレッツ・イスラエルの全ユダヤ人主張への裏切りとして非難した。過激派では、ベルナドッテは平和の創設者ではなく、神聖な運命の障害―聖書の預言の成就とみなすものに干渉する外国の役人―として見られ始めた。

それでもベルナドッテは理性と人間性がイデオロギーと復讐に勝てば平和が可能だと信じ続けた。彼は極端派が彼の存在を耐え難いと思わし始めても外交への信仰を維持した。悲劇的に、平和と国際法への彼のコミットメントは、神によって聖別され交渉を超えると信じる者たちとの致命的な対決に導いた。

## フォルケ・ベルナドッテ暗殺

1948年9月までに、フォルケ・ベルナドッテ伯爵のパレスチナ任務は20世紀の最も不安定な紛争の中心に彼を置いていた。国連仲介者としての役割は中立性を要求したが、中立性自体が存在的恐怖と聖なる信念に駆動される戦争で耐え難いものとなっていた。対立当事者は彼の平和提案を和解のジェスチャーではなく、彼らの正当性と神聖な目的への脅威として見ていた。

**アラブ国家**にとって、ベルナドッテの仲介はイスラエル国家を暗黙に認め―アラブ・パレスチナ権利の容認できない侵害とみなすもの。アラブ側にとって、彼の提案は**神的に約束された**ユダヤ民族への土地を剥奪する試みとして見られた。国際機関―または外国外交官―が政治的便宜で**エレッツ・イスラエル**の境界を再描画する考えは、彼らにとって異端の形態だった。

これらのグループの中で最も極端なのは**レヒ**、**スターン・ギャング**としても知られ、長い間英国とアラブの両勢力をイスラエル土地から追放するための武装闘争を主張してきたシオニスト地下組織だった。レヒのメンバーは聖書のイスラエルの全土を再征服する聖なる義務を果たしていると信じ、彼らが聖地とみなすものへのアラブ主権を認める妥協を拒否した。彼らにとっ

て、ベルナドッテの平和計画―エルサレムの国際管理、パレスチナ難民の帰還、アラブへの領土譲歩を要求―は外交的努力ではなく、神の約束とユダヤ民族の運命への裏切り行為だった。

**1948年9月17日**、ベルナドッテの人生は暴力的に終わった。国連マークの車列で**エルサレムのカタモン地区**を旅し、フランス国連将校**アンドレ・セロ大佐**と同行中、イスラエル兵に変装したレヒ過激派に待ち伏せされた。車両が道路検問で減速した時、攻撃者の一人一後に**ヨシュア・コーエン**と特定―がベルナドッテの車に近づき、近距離から数発の銃弾を発射し、ベルナドッテとセロを即座に殺害した。

暗殺は世界を震撼させた。ベルナドッテは非武装で、国際法の保護下で旅し、人道的・外交的任務のみに従事していた。彼の殺害は一人の男への攻撃だけでなく、国連の権威自体と国際平和維持の脆い理想への攻撃を表した。

事件直後、**イスラエル暫定政府**はダヴィド・ベン＝グリオン指導の下、公に殺害を非難し、レヒとイリグン、もう一つの主要地下民兵を禁止した。しかし、対応は完全な責任に達しなかった。レヒメンバーが逮捕されたが、誰も犯罪で有罪判決を受けなかった。数年以内に組織に**恩赦**が与えられ、一部の元メンバーがイスラエル政府の地位を得た。

国際的に、ベルナドッテ暗殺は**憤りと悲しみ**を引き起こし、特にスウェーデンと国連で。**国連総会**は彼に厳粛な敬意を表し、彼の死は紛争地帯でのより構造化された平和維持と国連職員保護の努力を刺激した。しかし、政治的に彼の任務は未完のままだった。彼の代理**ラルフ・バンチ博士**は後に仕事を引き継ぎ、**1949年の休戦協定**を成功裏に交渉し、バンチはノーベル平和賞を受賞した。

多くの歴史家にとって、ベルナドッテ暗殺は**聖なるナショナリズムと国際外交**の衝突を象徴―神聖な権利に根ざす世界観と妥協・人道法に基づくものとの間。彼の死は軍事イデオロギー前の道徳的説得の限界と、互換性のない絶対の間で仲介しようとする者の危険を露呈した。

フォルケ・ベルナドッテ伯爵の遺産は暗殺の悲劇だけでなく、彼が戦った理想―狂信より理性、暴力より法、そして世界で最も分裂した場所でも平和が死ぬ価値のある道徳的必須であるという信念―に生きる。

## 余波と遺産

1948年9月17日のフォルケ・ベルナドッテ伯爵暗殺は国際社会に衝撃波を送った。新設の**国連**代表が平和任務中に意図的に殺害されたのは初めてだった。多くの人にとって、暗殺は世界大戦とジェノサイドからまだ回復中の時代における国際法の脆さを象徴した。また、ナショナリスト的・宗教的主権のビジョンに根ざす新興イスラエル国家と、ベルナドッテが体現するグローバルな平和、交渉、責任の理想間の緊張を露呈した。

**スウェーデン**では、ベルナドッテの死は深い悲しみと憤りで迎えられた。彼は国民的英雄―戦時人道的努力で称賛され、グローバル事柄の道徳的声とみなされた。スウェーデン新聞は暗殺を残酷として非難し、正義を要求した。スウェーデン政府はイスラエルと国連に正式抗議を提出したが、外交的慎重さがすぐに憤りを和らげた。イスラエル国家性の初期年には、若い国と

の関係を危険にさらす国は少なく、スウェーデンは怒りにもかかわらず、問題をさらに対決せずに歴史に消えさせた。

**国連**はベルナドッテ暗殺に平和維持と紛争地帯での代表保護へのコミットメントを再確認して対応した。彼の代理**ラルフ・バンチ**博士、アメリカの外交官・学者がベルナドッテ任務を継続するよう任命された。バンチの忍耐強い交渉はイスラエルとアラブ近隣国間の**1949年休戦協定**を生み、バンチは**ノーベル平和賞**を受賞、最初の黒人アメリカ人として。しかし、彼の成功がベルナドッテの仕事と犠牲の基礎の上に築かれたことは広く認められた。

イスラエル国内では対応はより曖昧だった。暫定政府は暗殺を公に非難し、責任ある極端派を禁止したが、正義の追求は限定的だった。**レヒ**メンバーが逮捕されたが、ベルナドッテ殺害で誰も起訴されなかった。数年後、一般恩赦の下でレヒ元メンバーは法的結果から解放され、一部はイスラエル公的生活の地位を得た—最も著名に**イツハク・シャミール**、後に**イスラエル首相**となった。

おそらく最も驚くべき皮肉は、**ヨシュア・コーエン**、レヒ過激派でベルナドッテとアンドレ・セロ大佐に致命的な銃弾を発射した射手と特定された者が、イスラエル創設首相**ダヴィド・ベン＝グリオン**の親しい友人兼個人ボディガードとなったこと。コーエンは後にネゲブの**キブツスデ・ボケル**に定住、ベン＝グリオンが引退した場所；二人は何年も隣同士で暮らし、毎日散歩し会話した。国連初の平和仲介者の暗殺者が暗殺を非難した国家を築いた男を守るに至った事実は、イスラエル初期の道徳的偽善を露呈する。

ベルナドッテ暗殺の道徳的・政治的含意は今も響く。彼の死は**宗教ナショナリズム**が政治権力と融合すると妥協を不可能にし、仲介者を敵に変えることを示した。ベルナドッテにとって、外交は人道主義の延長—対話と共感が憎悪と恐怖を克服できるという信念。彼の暗殺者と彼らを鼓舞したイデオロギーにとって、土地自体が聖であり、交渉は神聖な権利の放棄に等しかった。**普遍的道徳と聖なるナショナリズム**間のこの対立は中東の後続紛争で響き、平和構築の持続的課題の一つである。

彼の死の悲劇にもかかわらず、ベルナドッテの遺産は彼が形作るのを助けた機関と理想に生きる。彼の人道的革新—**白いバス**や救援作戦の中立性への彼の主張—は国際法で人道的車両と人員を保護するための現代的慣行の先駆けだった。彼の国連仲介者としての奉仕は将来の**国連平和維持作戦**の基礎を築き、中立性、人道的アクセス、積極的戦場での外交使用の先例を設定した。

フォルケ・ベルナドッテ伯爵は今日、政治的極端主義の犠牲者としてだけでなく、**道徳的勇氣と国際的良心の象徴**として記憶されている。彼の人生は人道的援助とグローバル外交の世界を橋渡しし、彼の死は暴力と平和の間に立つ者のリスクを強調した。彼のパレスチナ任務は未完だが、彼が生きた原則—慈悲、中立、人命の価値への揺るぎない信仰—は私たちの時代のすべての平和努力に不可欠である。

## 結論

1948年のフォルケ・ベルナドッテ伯爵暗殺は一人の男の沈黙だけでなく、彼が表した平和と道徳的外交の理想への象徴的打撃だった。彼の死は戦後世界で正義と人間性を維持する闘いの中で国連の最初で最も痛ましい失敗の一つをマークした。**スウェーデン**にとって、損失は深く個人的だった。ベルナドッテは国民的英雄—貴族生まれの男が地位と影響を他者の奉仕に使った。彼の暗殺者を裁判にかけるイスラエルの拒否は**スウェーデン・イスラエル関係**に癒えていない傷を残した。今日まで関係は冷たく、**スウェーデン王室はイスラエルへの公式訪問を一度もしていない**、その犯罪の持続的影の静かな証言。

しかし、ベルナドッテの記憶はスウェーデンだけに属さない。それは**パレスチナ人**によっても記憶され敬われる、彼らは故国で展開する悲劇に直面する意志のある数少ない国際人物の一人として彼を見た。**ナクバー**—1948年のパレスチナ人の大量移住—が数十万人を家から引き裂いた時、ベルナドッテは世界外交官の中でほぼ一人で彼らの**帰還権**を主張し、永久追放の不正を非難した。彼の提案は公正と人道的原則に根ざし、移住者にまだ実現していない尊厳と回復のビジョンを提供した。

彼の慈悲と勇気の認識として、**ガザ市**の住民は彼に敬意を表して通りを命名した：**フォルケ・ベルナドッテ伯爵通り** (شارع كونت برنادوت)、南部の**リマル**地区に位置。アラビア語と英語で書かれたシンプルな青い標識は、何十年もスウェーデン仲介者が彼らの土地に平和をもたらそうとして死んだ静かな賛辞として立っていた。それは感謝だけでなく記憶も象徴—ベルナドッテの道徳的ビジョンと正義をまだ求める国民の持続的闘争間の橋。

今日、その通り—そしてそれを囲むガザ市の大部分—は廃墟にある。**2023年**からガザに解き放たれた破壊以来、リマル地区は瓦礫に還元された。フォルケ・ベルナドッテ伯爵通りの破壊は標識の喪失以上；それは記憶の抹消であり、ベルナドッテがかつて防ごうとした苦しみの鏡である。

このイメージには悲劇的対称性がある：迫害された者を救うために戦線を越えた男が今戦争の瓦礫の下に埋もれた通りで記憶される。それでも瓦礫の中でも彼の名は生きる—スウェーデンで、国連で、そして彼の任務をまだ信じる者たちの心で。フォルケ・ベルナドッテ伯爵の遺産は勇気、慈悲、そして平和がどれほど脆くても全人類への義務であるという信念を尊ぶすべての人に属する。

## 参考文献

- Bernadotte, Folke. *To Jerusalem*. London: Hodder & Stoughton, 1951.
- 国連総会. 決議181 (II): パレスチナの将来統治. 1947年11月29日.
- 国連安全保障理事会. S/773: フォルケ・ベルナドッテ伯爵によるパレスチナ国連仲介者の進捗報告、1948年5月14日の決議186 (S-2) に従って提出. 1948年9月16日.
- 国連総会. 決議194 (III): パレスチナ—国連仲介者の進捗報告. 1948年12月11日.
- Bunche, Ralph. *パレスチナ紛争に関する選定文書, 1947–1949*. New York: 国連アーカイブ, 1950.
- Segev, Tom. *One Palestine, Complete: Jews and Arabs Under the British Mandate*. New York: Henry Holt, 2000.

- **Morris, Benny. 1948: A History of the First Arab–Israeli War.** New Haven: Yale University Press, 2008.
- **Horne, Edward. A Job Well Done: The Story of the White Buses.** Stockholm: スウェーデン赤十字, 1949.
- **Peretz, Don. The Arab–Israeli Dispute.** New York: Facts On File, 1996.
- **スウェーデン外務省. フォルケ・ベルナドッテ伯爵への追悼, 1895–1948.** Stockholm: 政府印刷, 1949.
- **Khalidi, Walid (編). From Haven to Conquest: Readings in Zionism and the Palestine Problem until 1948.** Washington, D.C.: Institute for Palestine Studies, 1971.
- **Pappé, Ilan. The Ethnic Cleansing of Palestine.** Oxford: Oneworld Publications, 2006.
- **国連情報局. “Count Folke Bernadotte: In Memoriam.”** New York, 1949.